令和８年３月吉日

保護者・地域の皆様

高槻市立第八中学校　校長　松岡 洋之
高槻市立磐手小学校　校長　堀田 佳子
高槻市立奥坂小学校　校長　江河 千波

校区の学校経営方針に基づく評価と学校支援へのお礼

平素は、第八中学校区（第八中学校、磐手小学校、奥坂小学校）の教育活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。 本校区ではこの 4 年間、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）のもと、学校、地域、保護者が協働して子ども達の健やかな成長を支える取組を進めてまいりました。今年度も、５月、11 月、２月の３回、「学校運営協議会」を開催し、委員の皆様に校区の学校運営の取組状況や自己評価、分析についてご意見をいただきましたのでご報告いたします。

また、本年度も地域の皆様と共に子どもを育む活動「学校応援団 ＴＥＡＭ∞（チームエイター）」に、昨年にも増して多くの方々にご登録・ご協力いただきまして心より感謝申し上げます。日々の教育活動の様々な場面で、地域の皆様のお力添えが、子どもたちの学校生活を支えてくださっています。

今後も、校区３校が「育てよう ふるさとを愛し みんなのために考動する子」を目標とし、地域とともに歩む教育活動を推進してまいります。引き続き、変わらぬご支援とご理解を賜りますようお願いいたします。

令和７年度　第八中学校区の取組

１．　**八中校区　めざす子ども像**

自立（自ら考え行動する子）　共生（つながる子）　チャレンジ（未来を切り拓く子）

２．　**CS（コミュニティ・スクール）共育目標**

「育てよう ふるさとを愛し みんなのために考動（考え行動）する子」



３．　**今年度の第八中学校区の重点取組**

・主体的に学ぶ姿勢の育成
・小中連繋（連携→連繋）したカリキュラムの研究
・地域との繋がりを感じる取組の推進

４．　第八中学校区としての具体の取り組み（グランドデザイン「今年度重点取り組み」より）

（１） 今年度重点の具体の取組及び評価の検証方法と評価指標

学力向上

■具体の取組

・校区授業研究会の実施

研究テーマ「主体的・対話的で深い学びの実現を目指す」「評価の充実を意識した授業づくり」

＊ 6 月 25 日 磐手小学校　４年「総合的な学習の時間」
指導助言者　関西大学社会安全学部　教授　近藤　誠司　氏
講演：自分事としてとらえる防災・減災の授業実践例

＊ 11 月 18 日 第八中学校　　１年「理科」、２年「道徳」「音楽」

・校区合同会議の実施

＊　7 月 18 日 磐手小学校　『主体的・対話的で深い学び』の授業の実現に係る取り組みについて、学年交流を実施

＊ 12 月 24 日 磐手小学校　義務教育 9 年間を小中が連携し、系統立てた学びができる教育課程の推進を、授業研究部を含む各分掌別交流を実施

・パワーアップウィークの実施　　八中の定期考査に合わせて校区家庭学習強化期間を設定（年間４回実施）こども園、保育園とも通年連携実施
各自が学習計画を作成し、自分・保護者による振り返りを行う

・家庭学習のしおりを各家庭に配付

■検証方法と評価指標

※肯定回答８割以上, ◎５割以上〇, ５割以下△, 前年度比 10 ポイント以上を記載、（　　）は保護者結果

アンケート

「授業はわかりやすく楽しい」　**中：80.0%◎(74.2%〇)**
小：94.4%◎（86.2%◎+12.3）

「授業に意欲的に取り組んでいる」　**中：91.3%◎**　**小：93.4%◎**

「先生は教え方を工夫している」　**中：86.5%◎（75.4%〇）**
小：96.5%◎（95.2%◎+18.4）

「家で計画を立てて勉強している」　**中：59.7%〇**　**小：81.0%◎**

「『自ら考え行動する姿の育成』について、本校区は十分にできていると思う」
中：（78.7%〇）　**小：（86.6%◎+22.2）**

取組内容

校区授業研究会の実施　、全国学力・学習状況調査の状況

・校区授業研究会は、上記に記載。全国学力調査において、教科の結果については 3 校ともに全国値を上回る結果であった。

■分析と来年度に向けて

・授業の理解や意欲の項目は、大半が８割～９割と高い肯定回答となり、児童生徒は概ね良好な学びを学校教育でできている様子が見られた。全国学力調査の結果にも表れている。

・「家で計画を立てて勉強している」の項目では、小学校で、パワーアップウィークの活動結果が表れ始める回答結果となった。一方中学校では、放課後の生活変化や学習塾などの学習時間も多くなり、家庭での学習時間は減少する傾向が見られる。

・「主体的・対話的で深い学び」をテーマとした取組みは、一定成果が見られるアンケート結果となった。来年度は奥坂小、磐手小にて授業研究会を行う計画である。

児童生徒	**■具体の取組** ・校区合同会議の実施 ＊　7 月 18 日　学年間交流を実施　児童生徒の現状と取組について共有 ・校区人権研修会の実施 ＊　8 月 25 日　児童生徒理解の推進　茨木市立豊川小学校　教諭　毛利　伊吹　氏 「いじめを起こさない集団づくりのために」 公益社団法人　子どもの発達科学研究所　石橋　浩美　氏 「いじめ未然防止研修『トリプルチェンジ』」 ・八中体験授業の実施 ＊　12 月 19 日　小小が中学校の授業を体験　クラブを見学 ・小中合同会議の実施（12 月 24 日）：人権・特別支援教育について小小・小中で交流
	■検証方法と評価指標 **※肯定回答８割以上，◎５割以上○，５割以下△，前年度比 10 ポイント以上を記載、（　　）は保護者結果** アンケート 「学校生活が楽しい」　**中：88.9%◎（87.9%◎）　小：94.6%◎（93.5%◎）** 「友達と遊んだり勉強したりできている」　**中：92.5%◎　小：98.1%◎** 「お互いの人権を大切にする事を学ぶ機会がある」　**中：93.7%◎（89.9%◎）** **小：96.2%◎（91.5%◎+15.4 ）** 「人が困っているときは進んで助けていますか」　**中：86.2%◎　小：93.2%◎** 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」　**中：94.7%◎　小：95.6%◎** 取組内容 人権研修会の実施 **・人権研修会の実施は上記に記載**
	■分析と来年度に向けて **・「学校生活が楽しい」「友達と遊んだり勉強したりできている」の項目は、児童生徒、保護者ともに、肯定回答９割前後と非常に高く、良好な学校生活と感じている様子が見られる。** **・「人権を大切にすることを学ぶ機会がある」の項目は、児童生徒、保護者とも、９割を超える非常に高い結果となった。校区人権研修で学んだ「いじめを起こさせない集団作り」や「トリプルチェンジ」の研修を、その後の教育活動に取入れ、校区が連携した活動ができた様子を児童生徒、保護者の認識につなげることができているように感じられる。** **・「人が困っている時に進んで助ける」「人の役に立ちたい」の項目は前年度同様の高い結果となった。加えて、昨年度に引き続き、地域活動等ボランティア参加する子どもたちの増加、定着が見られ、「故郷を愛し、みんなのために考動する」児童生徒が育まれている成果を感じることができた。今後も地域とともに活躍する機会と意識の醸成に向け取り組むとともに、小中のかかわりが深まる活動の場の設定を試みたい。**
保護者・地域コミュニティ・スクール	**■具体の取組** ・チームエイターの活動の場づくり　・校区こども会議（7 月 24 日）の実施 ・ＣＳコーディネート会の実施　・関大生による出前授業（防災） ・「教志コース」北校生から小学生へのミニ講演（「高校生活について」） ・ふるさと ふれあいフェスティバルの参画、ボランティア活動：10 月 26 日（日）雨天中止 ・クリーンキャンペーンの実施（各校実施）　・中・北高生とのあいさつ運動（11 月火水曜） ・エイター情報交流会の実施（各校で実施）

保護者・地域 コミュニティ・スクール	■検証方法と評価指標 ※肯定回答８割以上,◎５割以上〇,５割以下△,前年度比 10 ポイント以上を記載、(　　)は保護者結果 アンケート 「自分の生き方や将来について考える機会がある」 中：94.2%◎　(81.6%◎) 小：89.6%◎　(74.9%〇+21.5) 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」 中：75.7%〇　　小：86.7%◎ 「学校では地域の方（チームエイターなど）と関わりながら学習する機会がある」 中：86.3%◎(76.0%〇-16.6)　小：96.0%◎　(96.9%◎) 「TEAM∞（チームエイター）について知っている」 中：71.7%〇　　小：83.0%◎ 「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）について知っている」 中：(45.9%△)　　小：(49.7%△+12.6) 「TEAM∞（チームエイター）の活動について興味がある」 中：(47.0%△)　　小：(55.6%〇) 「『小中連携の取組』について本校区では十分にできていると思う」 中：(84.5%◎)　　小：(75.5%〇+13.4) 「『地域とつながりを感じる取組』について、本校区は十分にできていると思う」 中：(79.1%〇)　　小：(86.3%◎+17.4) 「本校の広報活動は十分行っていると思う」 中：(77.7%〇)　　小：(80.9%◎+21.4) 取組内容等 チームエイターの活用状況及び感想　、ＣＳコーディネート会の実施　、児童生徒のボランティアの参加状況
	■分析と来年度に向けて ・「自分の生き方や将来について考える機会がある」の項目は小中ともに９割前後の高い結果となったことに加え、小学校保護者の項目が前年比２０ポイント以上高まる結果となった。設問項目を変更したことに加え、探求を重視した総合学習の取り組みが定着してきた成果と考える。小中連携を充実させ、段差を感じさせない学習活動を今後も推進する。 ・「学校では地域の方（チームエイターなど）と関わりながら学習する機会がある」の項目は児童生徒、小学校保護者の肯定的回答が非常に高い結果となったが、中学校保護者の回答が、１６ポイント以上減少する残念な結果となった。中学校でも取り組んでいるエイターの方と学んでいる様子を広報する機会が減少した結果と考えている。次年度改善に取り組む。 ・「TEAM∞（チームエイター）について知っている」の項目は、７割～８割と安定した割合となり、児童生徒の中で定着してきた様子がうかがえる。今後も児童生徒の学びを高めるため、チームエイターの方々との連携した教育課程の作成に取り組む。 ・「小中連携の取り組みについて本校区では十分にできている」「地域とのつながりを感じる取り組みについて、本校区は十分にできていると思う」「校区の広報活動は十分行っていると思う」の項目では、小学校保護者の回答が前年比１５～20 ポイント前後高まる結果となり、小中保護者とも８割前後の高い回答結果となった。

保護者・地域 コミュニティ・スクール	一方で前年度も課題であった、「コミュニティ・スクールについて知っている」「TEAM∞（チームエイター）の活動について興味がある」の項目は小学校保護者の回答に上昇は見られるものの、半数にも満たない結果が多く見られた。本年度より市全体としてコミュニティ・スクールを導入しているため、他校の回答なども分析し、今後の取り組みを検討する必要がある。 ・「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」の項目は、コミュニティ・スクール共育目標である「育てよう ふるさとを愛し みんなのために考動（考え行動）する子」に直結する質問項目である。昨年と比べ、小学校で上昇傾向が見られた。今後も小中連携したチームエイターの方々との取り組み、子ども園との共同活動等、校区で共に学ぶ消防団や関西大学との防災教育等連携の幅を広げ、わかりやすく魅力的なコミュニティ・スクールの取り組みや TEAM∞の活動を推進する。
安全教育	**■具体の取組** ・防災教育に係る研究授業：6 月 25 日　磐手小学校　　※再掲 ・校区合同会議の実施：7 月 18 日　教科担当者部会にて防災・安全教育について、各校での取り組みを共有し、連携を図った。 ・小中交流会の実施（12 月 24 日）：防災教育について小小・小中で交流
	■検証方法と評価指標 **※肯定回答８割以上, ◎５割以上〇, ５割以下△, 前年度比 10 ポイント以上を記載、（　　）は保護者結果** アンケート 「防災活動（地震などの災害に対する備え）の学習は大切だと思う（児生)」 「校区で十分取り組んでいる（保)」 **中：85.0%◎-13.3（91.0%◎）　小：98.7%◎（91.8%◎）** 「防火活動（火災の予防）の学習は大切だと思う（児・生)」 「校区で十分取り組んでいる（保)」 **中：81.0%◎-17.1（85.9%◎）　小：99.1%◎（93.5%◎）** 「防犯活動（犯罪やトラブルを防ぐこと）の学習は大切だと思う（児・生)」 「校区で十分取り組んでいる（保)」 **中：87.2%◎-10.9（88.1%◎）　小：99.2%◎（92.6%◎+14.0）** 「交通安全活動の学習は大切だと思う（児・生)」 「校区で十分取り組んでいる（保)」 **中：82.9%◎-14.7（84.2%◎）　小：99.0%◎（95.3%◎+13.7）** 「学校では命の大切さ、社会のルールやマナーについて学ぶ機会がある（児)」 「今後も学びたい（生)」 **中：87.9%◎（92.3%◎）　小：97.8%◎（94.0%◎+12.5）** 取組内容 9 年間を通した防災・安全教育カリキュラムの検討と共有、　避難訓練・交通安全教室等の実施

安全教育	■分析と来年度に向けて ・「防災活動」「防火活動」「防犯活動」「交通安全活動」等、安全教育に関する項目で、小学校保護者の設問において１０ポイント以上の肯定回答が上昇する様子が見られ、学校での安全教育について家庭での認識が高まる結果となった一方、中学校では生徒の肯定回答が全項目１０ポイント以上、下がる結果となった。例年と比べ、総合的学習の時間に取り組む教育課程の見直しや、取り組み時期、内容が変わったことが原因とみられる。次年度挽回すべく、年間の安全教育に向けた教育課程の再編に努める。 ・「学校では命の大切さ、社会のルールやマナーについて学ぶ機会がある、今後も学びたい」の項目では、小中ともに９割の肯定回答に達した。小学校保護者の回答については１０ポイント以上の上昇傾向が見られた。小中連繋した防災に関する授業研究の推進、安全教育の連携を深め、児童生徒が規範意識を大切にした生き方ができるよう９年間を系統立てたよりよい安全教育の推進に努める。

（２）めざす子ども像　「自立・共生・チャレンジ」　についての評価の検証方法と評価指標

自立	■児童生徒アンケート 「自分には良いところがあると思いますか」　中：80.2%◎　小：87.7%◎ 「自分でやると決めたことはやり遂げるようにしているか」 中：84.1%◎　小：91.6%◎ 「これまでの授業で、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいるか」 中：83.9%◎　小：88.8%◎+11.1 「課題や問題に取り組んでいる途中でうまくいかなかったときはやり方を変えている」 中：78.6%○　小：86.8%◎+10.3
共生	■児童生徒アンケート 「友だちと協力するのは楽しいと思いますか」　中：95.2%◎　小：96.3%◎ 「学校では地域の方(チームエイターなど)と関わりながら学習する機会（出前授業）がある」 中：86.3%◎　小：96.0%◎+10.0 「クラスの居心地がよく、楽しい」　中：88.9%◎　小：93.4%◎ 「あなたの学級は、友達が困っているときには助け合う」 中：91.3%◎　小：95.5%◎ 「自分の住んでいる地域が好きである」　中：86.3%◎　小：96.0%◎
チャレンジ	■児童生徒アンケート 「苦手なことにもがんばって取り組んでいる」 中：83.6%◎　小：93.8%◎+14.4 「総合的な学習はやっていて面白く将来役に立つと思う（中） 「総合的な学習はもっと勉強したいと思う気持ちになる（小)」 中：81.6%◎　小：88.0%◎ 「新しいことに挑戦することは好きだ」　中：80.0%◎　小：91.5%◎

■分析と来年度に向けて

・「自立」の分野は、４項目の内、２項目で１０ポイントを上回る傾向が見られた。自己肯定感を持ち、課題に向き合い成長できるよう、小中連携しながら発達段階に合わせ達成感を味わい学びを高めていくことができる教育課程の充実を図りたい。

・「共生」の分野は、昨年に引き続き、肯定的回答が８割後半から９割と非常に高い結果である。昨年課題であった「地域の人たちから教わる機会（出前授業）がある」については小学校においては１０ポイント以上の上昇となり、中学校においても 7 割台から８割台へと上昇する結果となった。TEAM∞さんと、共に学ぶ機会が日常となり、顔見知り感が培われるなど安定した取り組みとなりつつある。引き続き連携を持ち取り組みの推進を図りたい。

・「チャレンジ」の分野は、全ての項目において８割を上回る結果となったことに加え、「苦手な事にも頑張って取り組んでいる」の小学校回答は、１０ポイントを大きく上回り上昇する回答結果となった。小中の連携した教育活動が、「新しいことへの挑戦する喜び」や「間違いや失敗から学ぶことの大切さ」を育む教育課程となるよう、推進を図りたい。

（３）今年度の重点取組等についての評価結果と今後の取組

重点取組等	■保護者アンケート 「自ら考え行動する姿の育成」について本校区は十分出来ている 中：(78.7%〇)　　小：(86.6%◎+22.2) 「小中連携の取組」について本校区は十分出来ている 中：(84.5%◎)　　小：(75.5%〇+13.4) 「地域との繋がりを感じる取組」について本校区は十分出来ている 中：(79.1%〇)　　小：(86.3%◎+17.4)
その他	■令和６年小学校６年生と令和７年中学校１年生の３観点による経年比較について 防災　「「防災」活動（地震などの災害に対する備え）について関心がある。 R５年小６児童：90.5%　　R６年中１生徒：98.3% R６年小６児童：96.9%　　R７年中１生徒：85.0%-13.3 郷土愛　「自分の住んでいる地域が好きだ」 R５年小６児童：92.2%　　R６年中１生徒：95.5% R６年小６児童：95.5%　　R７年中１生徒：86.3% 自己肯定「自分には良いところがあると思う」 R５年小６児童：(77.9%)　　R６年中１生徒：(80.9%) R６年小６児童：(80.9%)　　R７年中１生徒：(80.2%)
自由記述	＜「今チャレンジしていることは何ですか？」児童生徒向け自由記述＞ ・学校運営協議会での提案より、校区教育目標の一つである「チャレンジ」の観点の学校自己診断結果が７割台と低迷していたことから、児童生徒が今頑張っている（チャレンジしている）事を知ることから始めてみるという目的で今年度自由記述をおこなった。別紙に示すように、記述を分類しグラフ化した結果、児童生徒は様々な物事に意欲関心を持ち、自身の成長に向けてチャレンジしている様子を知ることができた。また、低学年、高学年、中学校の発達段階に応じてチャレンジの方向性に変化が見られた。学習や、人間関係など課題に向けたチャレンジへと変化している様子も見受けられる。

■分析と来年度に向けて

・本年度の学校教育診断アンケート回答率は、中学校生徒 90.6%、保護者 86.7%、小学校児童 89.8%、保護者 94.8%であった。昨年度に比べ中学校保護者の回収率は 10.4%向上し、回答率の向上とデジタルでの回答定着が見られる。

・今年度の重点取組の回答について、３つの観点全てにおいて、小学校保護者の肯定回答率が大きく上昇する結果となった。設問方法を中学校と統一し、文言もより身近な言葉へと変更した結果が反映されたと感じる。今後も校区目標である「自立・共生・チャレンジ」を柱とした教育活動を今後も引き続き取り組んでいく。

・小学校から中学校へ進学した児童生徒について、防災、郷土愛、自己肯定感の３つの項目の経年比較をした結果、自己肯定感の設問については安定した結果であった半面、防災、郷土愛の項目においては１０ポイント前後の大幅に下降する結果となった。小中連繋を充実させることで、スムーズな学びの移行を行い、児童生徒の豊かな成長へとつながる教育活動を今後も継続し、分析をおこなう。

５．　学校運営協議会でのご意見

・この４年でコミュニティ・スクールの取組が成熟していることがアンケート結果からわかる。今チャレンジしていることを記述することは、自分を見つめ直すいい時間になっていると思う。それが、自立・共生・チャレンジにつながっている。地域で共に生きる仲間として、地域が要、つなぐ架け橋となり、子どもたちの育ちを見守っていきたい。

・「今、子どもたちがチャレンジしていること」のアンケートで、小学生はなわとびが多い。体力低下と言われているが、何か取り組みをしてはどうか。

・生徒は体育の授業は好きで、独自のルールを工夫してゲームを楽しんでいる。八中校区の子どもたちは、あたたかい環境で、地域に見守られて育っていることがわかる。

・運動量が多くなくても、体を動かすことが好きな子どもが増えていることは、よい傾向だ。

・今取り組んでいることが、素直にアンケート結果に表れている。防災学習についても、先生が少し話をすれば、それが手掛かりとなり、子どもたちの世界を広げていくきっかけにもなる。

・自分たちの地域を知ることが大事。この校区には、安満遺跡があり、一番初めに文化が栄えたと言われている。総合学習の時間に、地域を回ったり、出前授業の講座を活用したりし、継続的かつ計画的に地域を知る機会をつくってほしい。そうすると、郷土愛も育まれると思う。

・コミュニティ・スクールの目的をエイターさんから理解してもらうことも大切。

・エイターとして子どもに関われることはありがたいことだし、励みにもなる。2026 年１月発表「シビックプライド（市民が街に感じる愛着や誇り）コンテスト」で、高槻市は全国３位となった。参加型の喜びのある街づくりを高槻市は行っており、「誇りをもてる市」の中で、八中校区も誇れる地域になれたらいいと思う。

児童生徒、及び保護者のアンケート結果や、ＴＥＡＭ∞の皆様のご意見、また、学校運営協議会での委員の皆様のご意見を参考に、次年度コミュニティ・スクールの取組を充実させるため活かしてまいります。